

第3回 地域づくりビジョン審議会 議事録（発言内容まとめ）※町 HP 用

・日時：令和5年11月28日（木）
18時30分～20時15分
・場所：問寒別生涯学習センター

[出席者(敬称略)]

審議会委員 13名

芳野 福一／佐々木 優一／中村 智江／橋元 誠／笹井 英子／和田 和子／
糠 由季／森崎 英典／遠藤 雅樹／坂本 太一／阿部 由裕／小川 加津子／
牛崎 英一

オブザーバー 6名

幌延町議会議員 齋賀 弘孝
高橋 秀之

幌延町役場問寒別出張所 秋山 将

（地独）北海道立総合研究機構 石井 旭、牛島 健（リモート）

（株）エスエーデザインオフィス一級建築士事務所 小倉 寛征（リモート）

その他 8名

歴史地域未来創造（株）やまち 神長 敬、安東 勇人（メモトック）

地域おこし協力隊 出口正美

幌延町 副町長 岩川 実樹、住民生活課長 村上 貴紀

事務局（幌延町役場） 山下 智昭、小林 朗、渡邊 涼太

[傍聴人数] 9名

1. 開会
2. 委員長 挨拶
3. 幌延町 副町長 挨拶
4. 議事
 - (1) これまでの経緯について（資料1 事務局）
 - (2) 地域運営組織先進地視察（島根県雲南市）報告（資料2 北総研）
 - (3) 地域運営組織設立について（資料3～5 事務局等）
 - (4) 質疑・懇談等
5. その他
6. 閉会

1. 開会（司会進行：事務局）

- ・ 配付資料の確認及び本日の流れについて
- ・ オンライン参加あるため発言はマイク使用依頼

2. 挨拶（委員長）

私自身も、問寒別の過疎や高齢化は困ったものだという程度でよくわかっていなかったが、地域について勉強していく中で、これはただ事ではないことを認識した。これから先、どうしようも無くなる前にできることを少しでも考えて向かっていければと思う。行政も人が減り行政サービスも低下していくことも事実であるため、これからの問寒別をどうしたらよいか皆で意見を出して、皆さんでいい道筋を付けられればと願っている。

3. 挨拶（岩川副町長）

幌延町では、いつまでも住み続けられる地域づくりをまちづくりの基本方針に掲げており、地域の人口減少が進んでも共助の力で生活を維持していく可能性を検討するため問寒別地区をモデル地域にして地域集落支援事業を進めている。

昨年度は地域づくりビジョンを策定し、今年度は重点プロジェクトを推進していく取組を進めている。

今年度は、特に推進母体となる地域運営組織形成のあり方を模索しており、先日、先進地の島根県雲南市を視察してきたが、その必要性を感じるとともに、目からうろこ、もやもや感が払拭され、今後の地域づくりのため、地域が生き残っていくうえで、地域の組織が必要であり、地域のよりどころになると確信したところ。

持続的な支援の仕組みづくりを行政としても検討して、組織設立に向けて動いていきたいと思っています。

今回の審議会で、地域の理解が深まっていくことを願っている。

4. 議事

(1) これまでの経緯について（資料1 事務局 山下課長補佐）

- 令和元年度から、地域コミュニティ形成事業が始まり、初年度は集落支援員の設置やお試し地域おこし協力隊から始動した。
- 令和2年、再びおためし地域おこし協力隊として、地域のご協力をいただきワラベンチャーのスノーモービルランドに参加して、そこから協力隊活動が本格的に始まった。協力隊が定着することを重点化しつつ、地域交通の実証実験も始まった。
- 令和3年、新型コロナウイルス感染症蔓延により活動の停滞が生じるも、暮らし応援隊などの活動を開始して地域ニーズの把握に努めた。
- 令和4年、本音トークをスタートし、審議会をはじめ、地域づくりを考えるきっかけになる活動が始動した。といかん市や果樹園など、地域プロジェクトなども開始した。
- 令和5、地域づくりビジョンを策定して、ビジョンを推進するにあたって、地域のあら

たなかたちとして、地域運営組織の形成に向けて検討する段階に入った。6月の審議会では川北氏の講演を受け、地域の課題が身近なものであることを認識し、今月、地域運営組織の先進地である島根県雲南市への研修を実施した。

- 令和4年度に策定した地域づくりビジョンでは、地域や役場が担えなくなってきた地域活動の担い手として地域運営組織という新たな組織による解決策を提案しており、川北氏の講演の際にも、多様な団体の併存から総力を結集した経営組織への転換を提案されており、地域づくりビジョンを推進していく主体として地域運営組織の形成を進めようとするもの。

(2) 地域運営組織先進地視察（島根県雲南市）報告（資料2 北総研 石井氏）

- 地域運営とは、「拠点運営」、「公共交通の運営」、「産業の運営・支援」、「インフラ・施設維持管理」、「災害対応（共助）」、「不定期の地域活動（祭りなど）」など、地域にずっと住み続けるための仕事を担うことである。
- 川北氏の講演の人口推計によると、問寒別では2020年から20年かけて6割ほどまで人口が減るという見立てであり、今までのような地域運営できないので、これからの地域づくりをみんなで考えていく必要がある。
- 地域の現状としては次のとおり
 - ・地域の様々な団体は、同じような人が多くの職（役）を兼ねている
 - ・世帯主が中心に地域活動に携わっている
 - ・リーダーの成り手が不足
- 地域運営組織の考え方は、これからの地域運営における課題を、リーダーの技量ではなく組織の力で解決していこうとするもの。

【視察概要】

- こうした背景のもと、人口減少の課題先進地である島根県雲南市を視察し、地域運営を持続させるためのヒントを探った。また、この課題に行政もどのように地域に関わっていくかも同時に視察した。
- 雲南市の特徴
 - ・6町の市町村合併をもとに地域運営が活発化
 - ・市内に30の地域自主組織（組織運営組織）が存在
 - ・市と組織で協定を締結し、地域と市との役割分担を明確化
 - ・組織の必須業務と選択業務がそれぞれに選定でき、市のサポート体制を明確化
- 視察により把握できたポイント
 - ①人材の確保
 - ・専従の職員がいる（組織が人を雇う）
 - ・常勤スタッフの兼業（1人で複数の作業）
 - ・1人工の仕事を複数人で手分けして作業
 - ・地域外へ働きに行っている人を取り込む（地域に働き場所）
 - ②様々な収入源を活用
 - ・会費

- ・市からの交付金(助成金ではないので使い道を自由に決められる)
- ・公共施設の指定管理
- ・収益事業

③多様な取組内容:それぞれの組織のよいところを他地域の良い活動をパクりあう

- ・地域管理
- ・拠点運営
- ・生活支援
- ・団体支援

④既存団体との連携

- ・自治会(町内会)との連携
- ・既存団体事業統合等(食改事業を新組織の活動に統合 例:笑んがわ市など)

⑤皆が参加する計画づくり

- ・構成員把握(全住民のデータをまとめる 例:新市いきいき会など)
- ・中学生以上全住民アンケート(回答率9割越え)

⑥リーダーが楽しそう

- ・楽しそうに活動を語る
- ・信頼できる後継者がいる
- ・考えることは嫌いではないリーダーがいる

⑦立派な拠点がある

- ・市が交流センターを設置し各地域運営組織の活動拠点を提供
- ・防災時対応として、シャワー室や防災備蓄庫なども確保

○柔軟な行政支援

- ・既存概念にとらわれず地域が望む形を柔軟に見直しながら人的、財政的支援継続

(質問・意見)

- 岩川副長等:地域運営組織のうち、「躍動鍋山」の会長がとても印象に残っている。退職してから鍋山にUターンし、「生産年齢人口に負担をかけられない。若い世代をサポートするのが我々の仕事。我々がやったことを、若い世代が次の世代に返すことが理想」と語っており、学ぶべきことが多くあった。

(3) 地域運営組織設立について

(資料3~5 事務局 山下課長補佐、北総研 石井氏)

- 地域運営組織の概要:地域運営組織は地域活動や日常の暮らしを支える活動を行うもので、地域デマンド交通や除雪・草刈り、イベントや各地域団体の運営サポートなどを行う。
- 役場の立ち位置:役場は組織を下支えすることがメインになる。役場の機能も縮小していることや、役場より地域がやる方が効率的、効果的であることからこのような体制が望ましいと考えている。
- 設立趣旨:現在の課題として、地域での人や担い手の減少。事業者観点からは、お客さんの減少とニーズの多様化。行政も支援できる体制が縮小している。それを、個

人やリーダーではなく組織を形成し、小さなビジネスを組みあわせて事業化して、それを地域の裁量で決定していくことで、組織を維持しつつ地域運営を行っている。

○7つのコンセプト

- ①地域団体が運営上抱える課題を「組織」で解決
- ②マルチタスクとリーダーレス
- ③人材の活躍の場の創出と人材確保
- ④儲けと仕事の両立
- ⑤既存団体との連携
- ⑥課題解決に向けて全員参加
- ⑦皆が「楽しい」と思える運営体制

○事業内容

- ①住み続け支援
- ②公共空間の管
- ③交流・教育
- ④民間事業支援

○設立ロードマップ:前回の検討会でも、時間をかけて示して、地域の理解を得ていく必要性を実感した。

- ・12月7日 設立準備会:どうかかわり方やどんな活動をするかなど、組織の中身を決めていく
- ・12月12日 シンポジウム:他地域の事例を紹介してもらい、といかんの地域づくりを考える
- ・1月 設立準備会
- ・2月 本音トーク
- ・3月 審議会、本音トーク

○組織体制案

- ・NPO 法人が有力
- ・NPO 法人では、10人の会員が必要となる
- ・審議会で活動をチェックしながら、本音トークで地域の課題ややりたいことを集めて実行につなげていく

○2つの機能

- ・協議機能:総会や役員会など考える場で、町内会組織でいうと事業計画や予算を決める定期総会や役員と同じような機能
- ・実行機能:実践の場で、町内会組織で実施している行事のようなもので、町内会ではボランティアだが、地域運営組織では対価を発生させ、専従スタッフも雇うなどして地域の負担を軽減して、実践の推進力を高める

(4) 質疑・懇談等

- ・なし

5. その他

- ・ 地域運営組織の説明資料を活用して身近な人に浸透を
- ・ 12/7 地域運営組織設立準備会、12/12 地域づくりシンポジウムへ参加案内

6. 閉会（委員長）

日常では出てこない言葉が組織の中でたくさん出てきて、わからないことも多いとは思いますが、地域をなんとかしなきゃと思っている人も多いのではないかと。以前、地域に多くあった店も今は1店舗頑張っている程度になってしまった。その店もいつまでやってもらえるかわからない。もし、無くなったときに組織の中から買い物できる場所を作らなきゃいけないのかなといったことも含めて地域を考えていかなきゃいけない。

それも含めて、わからないことなどを相談したり、聞いてもらったり、勉強しながら、問寒別を守っていかなきゃいかなければならない。誰かがやってくれると思いたいところだが、町や誰かがやってくれる時代はそう続かないかもしれないので、今後、皆さんとともにこれからの将来や地域づくりを議論していけたらよいと思う。

(以上)